



「手紙で読む—ゴヤの芸術とその時代」



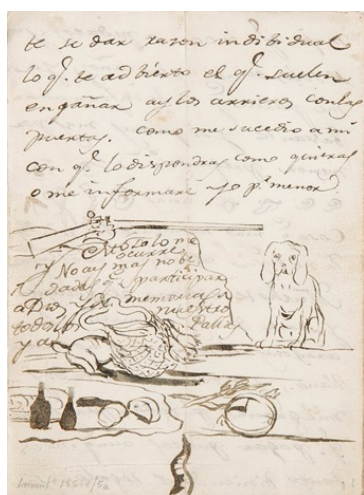
早稲田大学名誉教授 大高 保二郎

フランシスコ・デ・ゴヤ (1746-1828 年) は「二つの時代、二つの世紀を生きた人間」だ。ゴヤ 82 年の生涯は、18 世紀ロココの黄昏から革命を経て 19 世紀近代の揺籃におよぶ激動の時代であった。王侯貴族の雅な宴、王室や修道会の墮落と退廃、民衆の無知や悪習、革命と戦争など、社会は目まぐるしく変動した。その深層においては人間的価値の変動、パラダイム・シフト（規範の転換）が起きていた。

「絵は黙せる詩」（詩人シモニデス）であり、言葉では語らない。絵は、そこに描かれたイメージ＝画像を見て、我われは思索し感動する。一方、ゴヤが残してくれた公私にわたる書簡、公文書類、そして素描や版画に添えられた文字資料はイメージではなく言葉である。わたし自身、ゴヤという芸術家について、絵画作品をとおしてその人間像を構築していたが、『ゴヤの手紙』の翻訳を進めながら初めて、それまでのゴヤ像が大きく崩れていく貴重な経験を味わった。ゴヤはベートーベンと同様、人生の半ばで聳者となった。

本講演ではゴヤの手紙を絵画作品と並行させ、その時代と彼の芸術を考えたい。

大高 保二郎（図書館で『ゴヤの手紙（上・下）』岩波文庫を繙いてみてください）



サパテール宛の手紙 1783 年



ゴヤ《アトリエの自画像》（部分）

1794～97 年頃



ゴヤ《サパテールの肖像》1790 年

2024 年 3 月 1 日(金)

14:00～16:00 (13:30 開場)

波止場会館大会議室 2 (4 階海側)

参加費 : 1500 円 定員 : 30 名

お申込み & お問い合わせ : spain_salon@yokohama_spain.jp (服部)

大高保二郎先生



香川県生まれ。マドリード・コンプルテンセ大学哲・文学部、早稲田大学文学部に学ぶ。専門はスペイン美術史、バロック美術。跡見学園女子大学、上智大学、早稲田大学各教授を経て現在、早稲田大学名誉教授。著作：『スペイン 美の貌』（ありな書房）、『ゴヤ：戦争と平和』（新潮社）、『ベラスケス—宮廷のなかの革命者』（岩波新書）、『ピカソ作品集』（東京美術）、共著：『肖像画—姿とところ』（集英社）、『堀田善衛を読む』（集英社）、『スペイン美術史入門』（NHK ブックス）、共編・訳：『ゴヤの手紙（上・下）』（岩波文庫）。会田由翻訳賞、地中海学会賞。